２００１年6月１８日

循環共生型社会を目指して

００３２１９Ｂ

理学部物質地球科学科

小嶋　純史

「循環」

　今回、自分はテーマに対して循環型社会と共生型社会をまずは分類して考えてみました。循環型社会については水循環を取り上げてみました。
現在、地球的規模で水環境が悪化していることは私達がすでに承知の通りです。それは私達の住む宜野湾市においても言えることだと思います。例に上げれば、私達が生活する上で出される生活排水や産業排水などにより水質（水循環内性質）が悪化し、三面張りの護岸などにより人を寄せ付けない河川へと変わってきました。宜野湾市内に多く見られる湧水はかつては住民の飲料水でした。地形地質的に水がすぐ海に流れ込んでしまう沖縄において水は大変重要なものであり湧水地点は神聖な場所とされていました。しかし現在、そのほとんどが農業用水になり変わっています。その原因の一つとして上水道の普及が上げられます。上水道や下水道は私達の生活において大変便利なものでありますが、自然的水循環内の水の流れを無理矢理変えてしまうということになります。また、下水道の普及にともなって生活排水の処理が簡単になってしまったことによって物を使い切るという考えが薄れてきたのと考えます。

「共生」

　環境共生を考えるにあたって、自分は北中城村の大城集落の事例を取り上げてみました。この事例では環境との共生を踏まえた街づくりを見て考えることができます。ここでは平成九年度観光地修景緑化事業というのがもともとありました。それを知った住民（特にお年寄りの方）が緑化グループ（花咲かじじい）を作り活動している。今日の環境問題が生活行為全般に関わる社会問題であって、市民一人一人が環境に配慮した生活様式を実践することが必要になってきたことを考えると、この参加型環境改善活動は大変重要な意味を持っていると考えます。